

23/6/26 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

丹羽ひろし(自民・名東区)：さて、本郷駅のエレベーター整備に対して答弁いただきました。前向きに検討していただけるとのことですが、私は、券売機や動線を工夫すれば、新技術にこだわらなくても、エレベーターを整備することは可能だと考えます。

先日、本市が主催した市民討論会で、参加者から、名古屋城天守閣にエレベーター設置を要望した障害者への差別的な発言に対し、市長と本市の対応が問題となりました。

市長肝いりの施設には、困難を可能にする対応をし、16年前から障害者が陳情してきた障害者スポーツセンターの発着駅に指定されている本郷駅へのエレベーターの設置がなおざりにされてきたことは、ダブルスタンダードじゃないかと考えます。

そこで、交通局長とのやりとりをお聞きいただき、障害者スポーツセンターへの送迎の発着駅に指定されている本郷駅の改札階にエレベーターが整備されていない状況をどのように考えるか、市長にお聞かせ願います。

河村市長：まずは本当は今日までに見に行かなきゃなんないんですけど、記憶にないことはないんですけど本郷ですから、よう行ってましたけど、ご不便かけておられとるんだったら、あとご要望があるなら、でもそれができるようになったなら、直ちにでもエレベーターをつけないかと思えますけど。

丹羽ひろし(自民・名東区)：非常にね前向きな答弁で早くね、実現することをお願いします。もっと違うこと言ったらね再質問しようと思ったんですけど、ありがとうございます。市長肝いりの天守閣木造復元では、2億円以上の予算を投じて、公募のための実物大のモックアップを作り不可能を可能にしようと努力してこられた一方で障害者スポーツセンターの乗り継ぎ駅で、障害者が多く利用する本郷駅のエレベーター整備は、我慢してほしいというのは、本市対応に本市の対応に本市の障害者施策に対する希薄さが今まであったのではないかというふうに考えるのは私だけではないと思えます。

浅井正仁(自民・中川区)：それでは、議長のお許しをいただきましたので通告に従い、名古屋城天守閣木造復元について質問させていただきます。

では、松雄副市長にお聞きいたします。

6月3日、名古屋市をバリアフリーに関する市民討論会。副市長は出席していたと思います。今問題となっている差別発言。あなたはお聞きになりましたか。

これをもちまして第1回目の質問を終わります。

松雄副市長：名古屋城天守閣木造復元につきましての市民討論会につきまして、副市長は当日の発言を聞いていたかといったようなご質問を頂戴いたしました。

当日の発言につきましては市民の方の様々なご意見を伺うことができる貴重な場面でしたので、全体として注意して拝聴しており、問題となる発言も聞こえておりました。そうした中、不適切発言に対しましては、一旦職員が駆けつけて止めるように収めるようにいたしました。本来であれば、発言のあった時点で制止する、その後も不適切な発言は控えるよう注意喚起するなど、市として本来あるべき対応を当局に即座に指示するなど、対応することができなかつたことにつきましては、副市長である私の人権意識を問われてもおかしくないことだと深く反省をいたしております。そして適切な対応を取らなかつたことにより、発言を受け、深く傷つけてしまったご本人はもとより、討論会自体を台無しなものにしてしまい、お忙しい中、市の求めに応じて参加ご発言をいただきました市民の皆様にも多大なご迷惑をおかけし、また障害者団体との方々の信頼関係もなくなつたことにつきまして、深くお詫びを申し上げます。今後二度と同様な事態を起こさないよう、自らを厳しく律するとともに、今回の件を十分に検証し、市を挙げて、人権政策の推進に取り組み、市政の信頼回復に努める所存でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：ご答弁いただきました。

副市長さん自らを厳しく律する。どう律するかは、よく考えていただきたいと思ひます。

でね、副市長さん、今、あたかも自分が検証して市政の信頼感回復に努めると。

言われたんだけど、今回あなたは検証される側ですよ。

あなたはあそこにいたんだから。そして言葉も聞いた。市長は言葉が聞こえなかつたって言った。あなたは聞いたにもかかわらず、だからあなたは検証される側だ、と言わさせていただけます。

それからもう討論会も3週間経つた今日ね、僕が聞かなかつたら副市長は、いつのタイミングで言ったんだろうか。市長と佐治局長が言つたら、謝罪したらそれでいいんだろうか。ねえ副市長。質問はいたしませんけども、だから、今回のこの市民討論会、あなたは2月議会で、自分の存在意義とつた。名古屋城復元が自分の存在意義だと言つた。

この討論会において、申し訳ないけど、あなたの存在意義は今回なかつたと言わさせていただく。

それでは次の質問をさせていただきます。

昇降技術の国際コンペを行つた後のバリアフリーの検討経緯について、松雄副市長正確に正確に順を持ってお答えください。

松雄副市長：バリアフリーにおける昇降技術に関するこれまでの経緯についてご質問いただきました。

木造天守に導入する昇降設備につきましては、令和4年4月に公募を開始し、同年12月に最優秀者を選定しており、その結果を令和4年12月5日の経済水道委員会で、当局よ

り公募の最低要求水準である1階までは確保し、より上層階を目指すのご説明させていただきました。

一方で、同日行われました市長の定例記者会見では、市長から1階2階、1、2階までのご発言があり、市長と私を含めた当局との間において選定された新技術の認識の不一致、を露呈してしまい、市民や議会の皆様に混乱を生じさせてしまい、大変ご迷惑をおかけしたところでございます。

所管事務調査後、昨年末にかけて市長や私のもとに、エレベーターをつけないとした市長の公約に違反する、まず復元をしてから、その後にエレベーターを設置すればよいなど市民から昇降設備をつけることについて反対する厳しい意見が多数寄せられました。

そのため、私は直接意見をいただいた市民をできる限り回り、これまでの経緯や事業の内容、進め方についてご説明をし、ご理解をいただけるように丁寧に対応させていただきました。名古屋城には多くの史資料が残されて、往時の姿を復元できる日本で唯一の城であることから、市長のお考えは、史実に忠実な木造復元するという観点から、昇降設備の判断が昇降設備を設置しない、申し訳ございません。昇降設備を設置しない、または1階までとの意思が固いことを感じていたため、市長の判断が昇降設備を設置しないという結論だけにはならないよう、市長と何度も意見交換を重ね、様々な方策を模索し、年明けには当局に対して公募で選定した垂直昇降技術を当初は設置せずに復元を進めてから設置する。もしくは公募の最低要求水準である1階まで設置するという事で復元計画を取りまとめるよう指示をいたしました。

一方で、市民から当局にも、昇降設備の設置設備、昇降設備の設置につきまして反対する意見や、容認する意見など様々な意見が寄せられており、昇降設備をどこまで設置するかの市の方針は、これまでの事務方の積み上げたでは決定することが困難な事柄であることから、改めて多くの市民の意見をいただいた上で、最終的には市長の判断を仰ぐことが必要との結論に至り、その旨を、2月定例会の本会議で答弁をさせていただきました。

このような経過も含めて、有識者会議との関係で言えば、一旦、令和5年3月末の有識者会議に提出した整備基本計画につきましては、公募の最低要求水準である大天守の地下1階から1階目については、この垂直昇降設備によりバリアフリーに対応した移動経路とする。より上層階については、引き続きバリアフリー対応の検討を進める。と記載をいたしました。が、次回の全体整備検討会議に向けた有識者の事前説明では、より上層階への検討をするといったものにつきましては、1階までになる可能性もあることも含めての検討であることを、事務方では説明をしたと聞いております。

これまで天守閣の木造復元には議会の皆様からは当初の計画が大きく遅れていることに対して厳しいご指摘をいただいていること、また市民、経済界、とりわけコロナ禍で大きなダメージを受けた観光業界から大変大きな期待が寄せられていること。

また市長から一刻も早く事業を進めることについて、強い指示を受けておりましたことから、当局に対しましては、例年8月に開催されると聞いている復元検討委員会を目標に整備基本計画を文化庁に提出することができるよう、市民意見の聴取、有識者で構成する全体整備

検討会議での合意、そして所管事務調査を速やかに進めることを、年度が明けて4月早々に指示したところでございます。

以上でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：どうも長いことありがとうございました。

ちょっと聞いていて肝心の内容があんまりよくわかんないので、ちょっとパネルを用意させていただきました。見えなくて結構でございます。このパネルは観光文化交流局からいただいたもので、もちろん松雄副市長も確認されている資料でございます。

今の松雄副市長が言ったことをだんだん簡単に書いてある資料でございます。

で、まず、これ問題にしたいのは、誰が1階までと決めた、決めたということだと僕は思います。

まずこの市長、令和4年11月、3階までしか認めないと、ここで言ってる、言ってます市長は、だけどこの3階までっていうのも、国際コンペをやった後だからアウトだよな。

それから、その後、市長は12月には1階か2階までと考えが変わったというのがここに書いてあります。

次に副市長。今年2月の本会議で、これ渡辺義郎、元団長だと思うんだけど、より上層階へのバリアフリーを引き続き検討していくとともに、市民意見を聞いてその結果も踏まえて、最終的には市長の判断を仰ぐ、先ほど言われましたね。それがここかな。

で、最後に観光文化交流局は終始一貫して最上階を目指す。というのが、なります。

となると、誰も1階って言ってないんですよ。

で、だけどこれを見ると、年末から年始頃、副市長の考えに変化って書いてあるんですよ。

ここだ。副市長の考え方に変化。この変化ってなんだろうってみんな思いませんか。

副市長の心の中に何が変わったのか。

最上階が1階になったのかあるいはゼロ階になった。

あるいは3階になったのか2階になったのか。

こういった変化があったんだと思います。

で、1月の副市長の勧告があり、そして1月に副市長が観光文化交流局に1階までの計画を作るように指示とあります。

それが、ここだな。副市長からの指示。

公募の最低要求水準である1階まで設置する。

ここで、副市長は言ってんですよ。

となると、2月定例会つまり副市長は市民意見も聞かずに、市長にも相談せずに1階までと決めて観光文化交流局に指示したということになります。

なのに最上階を目指す、2月の定例会、渡辺義郎元団長にこれは、虚偽の答弁をしたという。うその答弁をしたということになる。よくぞ自白したなっていう、私は思ってます。

それでね、松雄副市長は、市長が昇降機を設置しない。となることを避けるため、1階までに決めたと、ここには明記されてます。

どこだ。これか。では市長ね、市長さん、質問します。

松雄副市長が、は、市長が昇降機を設置しないとなることを避けるため、1階までに決めたと明記した。

では市長。あなたは、松雄副市長に昇降機は設置しないことでいいのか。指示しましたか。イエスかノーでお答えください。

河村市長：今の質問は質問通告を受けておりませんので、こういうのは正確に思い出さなあかんですからね。何を喋ったか。

今かと言って、あの話がありましたんで、今の範囲ですよ。

私は、今松雄氏が言ったように、やっぱつけないと、いう意見が非常に強いと。

某中日新聞に大きく出ました。一番上まで行くというのがね、あれから私の知っとる方やなんかもう冗談じゃないと。お金も寄付したのになんなんだと。いうの。

相当言われましたこれやっぱ駄目なんだと。

それとまあ実際のことを言いまして、今の話の中で誤解があるのは、最上階を目指すというのは、そのエレベーターで目指すというんじゃないですよこれは。

上がれるように、上がれるように、そういう技術の、そういう技術のが開発できないかと。それも入れて目指すということです。

これ言っときますけど、それはいいでしょうと、それはやりましょうとそれは世界に冠たるものができちゃ嬉しいですからそういう話です。要するにした。

それと途中、どういうふうにながってかちゅうのは、まだ確定してないわけですよ、今のこないだできた1階ずつ上がっていくやつでもですね、3階とか、2階ぐらいまでできます。

1、2階ではできる。それぞれより上は、まだ確定的な技術じゃないんですよ、答えとるじゃないですか。なにをいってんだいって。

ということでありまして、だから実際はこの技術の進行の度合いやら、そういう状況を見て1階でも今のところより遥かによく見える外が、これ、1階、1階は、それははっきり覚えてませんよ、これ。そんなもん質問通告なしでなんでそんなこと言うんだ。わやだが。

浅井正仁(自民・中川区)：通告なしでね。

別に丁々発止ってそちらが言ったんでしょ、私に。

だから丁々発止でやってるし、答弁をね、質問したらね、さっきの昼に変わって、そして今副市長また変えたよ。何のための通告なの。

前回だって何だ、返却>通告したにもかかわらず、コロコロコロコロ答弁変えるじゃないですか。いやあなたにはしてないけど一緒じゃん。申し訳ないけど。まあいいですよ市長。でね。結局、イエスかノーで答えれない。わかんない。

誰もエレベーターなんて言ってないですよ、昇降機ですよ。

ね、だから世界公募をやったんでしょ。上につけるために世界公募をやったんじゃないんですか。(2億3300万)。

河村市長：公募をやったところは、誰でもいいんだから、模型の設備があるように、あるようにエレベーターじゃなくて車椅子自体の改革とかですね、改良によって上がっていきけるようにもならないかということも含めてです。そういう業者がいたんですよ。だけど出さなかったんです実際、それは

浅井正仁(自民・中川区)：車いすの公募って車椅子でてきた>世界公募に。いや世界公募やったんでしょ。ちょっと副市長世界公募やられましたよね。どこの会社が選ばれました？

松雄副市長：令和4年12月5日に公表しました昇降技術に関する公募の最優秀賞の選定につきましては、株式会社MHIエアロスペースプロダクション様でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：そこは車椅子の提案じゃないですよ。ね。今市長が訳のわからんこと言っとる、いやいやちょっと待って、ちょっとならね副市長、もう1回質問する。これ世界公募やったんですよ。あなたたちはどこの会社を選んだの、今言ったMHIか。その市長のいう車椅子の会社なの？これ。副市長答えて

松雄副市長：世界公募にするにあたりましてはいろいろな条件といいますかバリエーションを考えておりました。例えば大天守の内部垂直に昇降する技術とか、あるいは外部から直接大天守1階以上に入場する技術とか、大天守の階段を直接昇降する技術とか、いろんなことを公募いたしまして、MHIさんが最高の技術だということで選定されたということでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：副市長、今市長の言った車椅子の会社は関係ないよね。

松雄副市長：私は記憶している中ではそうした車椅子で上を登っていくっていう技術は公募に応じていただけませんでした。なかったということでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：ね、市長、公募になかったんですよ。だったらそこに提出公募をかけてかけてもらえばよかったじゃないですか、ちょっと時間のあれでもう次行きますよ。応募してもらわなあかん、まあいいや。そしたらね市長もう一つ聞きますね。市長は名古屋城の木造復元を早くしてほしいという民意を受けて頑張っているって日頃から言ってます。

だとすると今回のアンケート結果は47.2%の方が最上階まで昇降機を設置してほしい。これも民意。では市長あなたはこの民意を受けて今現在昇降機は設置したいのか、それでも1階なのか2階なのか、5階なのか。どうお考えですか。

河村市長：それはいろいろ今、熟考しとるところでございまして、どうとは申し上げられませんけど、47.数%。いろいろアンケートもとっておりますけど、僕の感覚から言えばあのその、その日の会でも言われ、ある人が言ってたけど私はあんまり関心なかったけどそんな値打ちのあるお城だとは知らなかったという意見もありましてですね。

だから、さあどうしますかとエレベーターで上がれますかどうですかと言えばそりゃ上がった方がいいよなというのは、ぱっと普通から言えばそう思う人が多いと、私は肌でも感じております。

ですから、その方も見えるけど、やっぱりもう1階ないしつけてくれるなという意見もものすごい強いですからこれ。本当に、特に自民党あんまり言ったらあかんこれは。あのいわゆる、いわゆる正しいみたいな保守の方ですね、は非常に強いですよやっぱり。文化を守ろうと、木造復元をやろうと。言う人たちは非常に強いのは、だから、そういうところで一番上まで、誰でも上がれるというものと、いわゆる、両方が納得するよりしょうがないですかオールオアナッシングじゃないんだから、ということをどう求めていくかとそういうふうになってます

浅井正仁(自民・中川区)：浅井将仁くん。これ世界公募をかけたんですね。

最上階を目指すと言って、私達にはそういう説明を受けました。

うん、そのために世界公募で何億と金をかけた(2億3300万)だけどそれが1階、でも1階2階は同じ構造だから必ずできると思います。ね。

(ちょっと間違ってる)じゃ副市長、私の言ってんの間違ってますか、副市長、副市長、副市長はどうですか、

松雄副市長：名古屋城名古屋城の構造についてご質問いただいていると思います。浅井議員おっしゃるように、地階と1階と2階、それから3階4階5階とは構造の作り方が全く違います。

地階と1階2階については、通し柱が中心な、ものでございまして、3階から4階5階は管柱そのその階だけの柱で構成をされてまして、半間ずつずれてる3階から、ということでございますので、1階と2階は同じ面積でありますので、非常に似ているというふうに言えると思います。

浅井正仁(自民・中川区)：これね、新技術、ね、公募するにあたって、ちょっと議長静かにさしてもらえない？

議長：市長に申し上げます。不規則発言は厳に慎むよう注意いたします。

浅井正仁(自民・中川区)：このね、新技術については、新技術、新技術についてはね、何のために新技術をしたのか。ここにね、1回考えていただきたい。あなたたちは最上階まで目指って最初言ったんですよ、職員は未だに言ってんですよ。なんでそれが1階に変わるの。一生懸命ね、あの、担当の梅田主幹なんかね150回も200回も障害者のとこ回ってんでしょ。職員はね、一生懸命やってんですよ。まとめようと思って。

これを見るとね、市長と副市長、あなたたちだけじゃないの、1階なのか2階なのか3階なのか、市長だって最上階、同じ景色を見せるってかつて言ったじゃないですか。

別にいいんだわ、別にいいんだわ、ねかつて言いました。

でね、それでねもう言いたいことたくさんあるんだけど、

議長：市長に申し上げます。お静かにお願いします。

浅井正仁(自民・中川区)：あのね、副市長、副市長、副市長にね質問させていただく。

これ物理的にこの8月の復元検討委員会は難しいと思いますけども、この先どうしていく考えなのか、お答えください。

(こんな重要なことを口止めるとはどういう議会だ、いかんこれ)

浅井正仁(自民・中川区)：副市長8月の8月の復元検討委員会ねこれも物理的にも難しいと思うんだけどその先どういう考えなのか、お答えください。

松雄副市長：8月の復元検討委員会への対応についてご質問いただきました、文化庁の復元検討委員会での議論を進めるためには、バリアフリーの計画を含めて、木造天守整備基本計画を取りまとめて、文化庁に提出する必要がありますが、私といたしましてはまずは今回の市民討論会の件を十分に検証し、市政の信用回復に最優先で取り組まなければならないというふうに考えております。

そのため現時点では整備基本計画の取りまとめや復元検討委員会の時期について言及する段階ではありません。が、バリアフリーの計画については、市民の皆様に丁寧に説明し、十分な理解を求めていくことが必要であると考えております。

浅井正仁(自民・中川区)：議長すいません。今の松雄副市長の発言ちょっとね、観光文化交流局の佐治局長と違うと思うんだよね。

先の経済水道委員会で佐治局長は「人権問題を重く受け止め、この問題を整理するまで前には進めない」と言ってますよ。だけど今の副市長はね、バリアフリーの何だ。

信頼回復を最優先に取り組んでいくが、バリアフリーの計画については市民の皆様に丁寧に説明し十分な理解を得る。それは並行してやるってこと。副市長、お答えください。

松雄副市長：佐治局長と同じ考え方でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：そうすると副市長は、とりあえず、この人権問題、差別問題、しっかりと検証委員会あるいは第3調査委員会、これを踏まえて、からじゃないと、名古屋城は進まないという考えでよろしいですね。どうぞ。

松雄副市長：その通りでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：それでは、市長も副市長もよく聞いていただきたいと思います。私5月の29日にね熊本城へ行ってきました。

何で熊本城行ったかっていうと、震災の後のエレベーター、がっついた。

そして入ったところにはスロープができて、外にはエレベーターも作ってあった。

熊本城の担当者の方から、今までなかったのになぜつけたんですか。と質問をしたら、「至極普通のことです」って答えられました。

今普通なんですよ。

(コンクリートのお城ですよ)

コンクリート市長そう言うけどね、今から建てるの悪いけど、新築だよ。
レプリカだよ、木造復元だけど新築だよ、

(ちがいますよ)

何の歴史も刻んでないよ、新築だよ

(冗談じゃ無い)

木造っていうだけだ。文化庁は再現っていう表現してるじゃないですか。ね。

文化庁は復元なんて表現使ってない。復元的整備でもない、あの指針に書いてあった再現ですよ松雄副市長、違いますか。

松雄副市長：再現という言葉は、別にあの、どういったらいいんでしょうか、復元と復元的整備ということをもとめて再現というふうにおっしゃっていますので、再現という言葉に何か特別な意味があるわけではないというふうに私は理解をしております。

浅井正仁(自民・中川区)：特別な意味がない。だけど今まで復元復元的整備、じゃあなんて再現って使ったんでしょねいいです。でね市長、そのときにね、最上階まで上がりました。

エレベーターはね地下から1階は4人乗り、地下から1階は4人しか乗れない。

で変わって1階から4階だったかな。だからあそこも3層なんですよ。

そこには思いやりエレベーターって書いてあるんですよ。最上階まで行きました。

そしたらそこにはね、車椅子の方が2人見えた。

そしてお年寄りのね何て言うのかなベビーカーみたいな引いている方が見えた。

それを見たときにね、熊本城の担当の方にね、障害者の人は喜んでますかって聞いたんですよ。

そしたら熊本城の方はこう言われた。「足の悪いご婦人が見えた。ね、その方は、小学生の遠足のときに足が悪くて、私だけは下から、ずっとベンチに座って、上を見ていた。70年。長い年月が経って、ようやく、最上階。あのときと同じ子どもたちと同じ景色を見ることができた。」ってすごい感謝したらしいですよ。

僕たちは今まで議論してた中で、高齢者や障害者だけにしか目が行っていなかった。

ね副市長。

子どもにこんな寂しい思いさせていいんだろうか。そういうことだってありますよ。

で、今の名古屋城で何が欠けてるか、そういう議論が欠けてるんじゃないのかな。と思いますよ

ね副市長。でね、その、熊本城へ行く動線、これはね、今工事だから導線ができてエレベーターもついてる。これ20年後には熊本城だって剥がさなきゃ取らなきゃいけない。

大変だよねってのは同じ名古屋市と同じことになり、議論をしなきゃいけない。

だから、20年後だから、10年後からその議論を進めるっていうんですよ。

これが本当の姿だと思うんですよ。

ね市長は今の名古屋城はあたかも偽物かのように言う。確かに徳川家康が作った名古屋城、これは本物だ。今のコンクリートの名古屋城は偽物か？本物に決まってるじゃないですか。戦後の焼け野原からね、名古屋市民の総意で6億の工事費で2億も寄付があって、みんなが文化庁へ頼みに行って、そして、みんなができたときにはお祝いした。

そして今議論しとる令和の名古屋城これは本物か、僕はそれだって本物だと思いますよ。

だけどこのまんま、市民が決裂してね、何の議論もないまま、こんな寂しい名古屋城をね、令和の名古屋城を作って本当にいいんだろうか。ね、千田先生も、こないだのコメントで言っていましたよ。市民の分断を生んじゃ駄目だって。だったらどうするか。

とりあえず名古屋市がねビジョンを決めなきゃ駄目なんですよ。

僕ね、足りないのは、名古屋城に、健康福祉局の障害担当の方、これに入ってもらうのが一番いいんだと思う。ね、障害の方が一番わかってる。

それは平松局長や杉野副市長なんて言うかわかんない。

だけど、そうすることによって、障害者の気持ちもわかるし、ね熊本城は、国が入ってるから早いんですよ。

文化庁が入り経産省が入り、名古屋は名古屋だけでしょ。

(都道府県がないからですよ)

ね副市長、1回そこをね本当に考えていただきたい、そしてね未来ね、未来の人たちから、その当時の名古屋の人たちは素晴らしいアイデアで素晴らしいものを作った。

1回作っちゃったらこわせませんよ。

ね、そういうお城を作っていただきますことをね、私は思ってます。

以上で終わります。